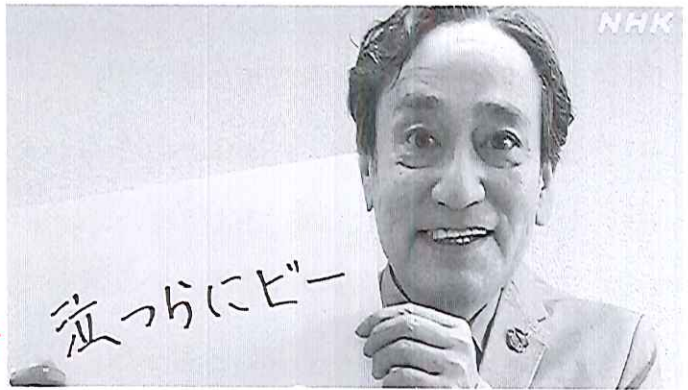


# コロナ カタカナ 多いかな？ワクチン予約がディフィカルト！

2021年5月31日 12時24分

「パンデミック」に「クラスター」、「ソーシャルディスタンス」。この1年<sup>あま</sup>余り、コロナ<sup>social distance</sup>をきっかけにカタカナ語が次々と登場<sup>とうじょう</sup>しました。いざワクチンが完成し、WEBで接種<sup>せつしゅ</sup>の予約をしようと思ったら、今度は「ログイン」「アカウント」というカタカナにお年寄りたちは

困惑<sup>こんわくざみ</sup>気味。カタカナのパイオニア<sup>pioneer</sup>のこの人に聞いてみたら・・・。「ちょっとアйдントアンダースタンドですね」みなさんはカタカナ語と“トゥギャザー”してますか？



## 「ログイン」がわからないの

「“ログイン”っていったい何？全然わからないから教えて」

横浜市<sup>よこはまし</sup>の実家<sup>じっか</sup>にいる79歳の母親から、群馬県<sup>ぐんまけん</sup>に住む娘<sup>な</sup>のナオコさんに泣きの電話<sup>はい</sup>が入りました。ナオコさんの両親はワクチンの接種<sup>つうち</sup>の通知<sup>つうち</sup>を受け取り、電話窓口<sup>まどぐち</sup>にかけてみましたが、何度かけてもつながりません。このため、インターネットで予約しようと考えたそうです。ふだんからスマホを使っているという両親。予約

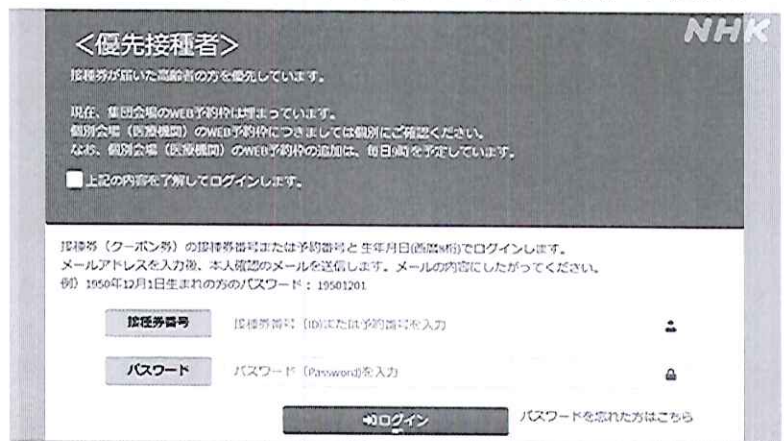
専用<sup>せんよう</sup>サイトの画面<sup>がめん</sup>まではたどりつくことができました。しかし画面に出ている

「ログイン」がどういう意味か、わからないというのです。

ボタンを押して進むよう<sup>つた</sup>伝えると、今度は「アカウント」や「URL」という言葉

につまづきました。ナオコさんは深夜<sup>しんや</sup>まで両親と電話でやりとりをして、最終<sup>さいしゅうてき</sup>的にはナオコさんが代わりに予約したといえます。

ナオコさん「両親はインターネットの用語<sup>ようご</sup>に慣れておらず、『アカウント』とか『URL』といったささいな言葉につまづいているんですね。母の友人の分も私が予約してあげました。周りの友達<sup>まわりのともだち</sup>も親が似たような<sup>じょうきょう</sup>状況<sup>じょうきょう</sup>だと聞き、もう少しお年寄りにもわかりやすい表現にできないのかなと疑問<sup>ぎもん</sup>を感じました」



## リコンファメーションって？

ワクチンの接種をようやく予約できたのに、また次なる壁が。

「リコンファメーションのお知らせです」

ワクチン接種の前日に、自治体からそんなタイトルのメールが届いたという投稿が、SNSでは相次いでいます。リコンファメーション、予約内容の再確認という意味です。「若い人も分からない」「迷惑メールかと思った」「予約確認のお願い、ではだめだったのか」ネットではかなり不評なようです。リコンファメーションメールを送った自治体の一つ、相模原市の担当者はこうコメントしています。

相模原市の担当者「システムを委託した事業者が提供している機能で、予約日前日に自動配信されるようになっていきます。文面はもともとの仕様をそのまま用いていますが、確かに今言われると分かりにくかったなと思います。文面を変えられるのか事業者を確認し、できるようなら平易な文にすることも検討したいです」

「エブリバデノウズ」に

カタカナ語があふれていることについて、この人はどう感じているのか。「やぶからスティック」、いえ、「やぶから棒に」ではありますが私たちはその極意を、あの方に尋ねることにしました。日本語と英語をトゥギャザーにする「ルー語」で有名な、タレントのルー大柴さんです。

67歳のルーさん、5月25日にワクチン接種券が届いたそうです。ほかの地域には「リコンファメーションのお知らせメール」が届いていると伝えると、「ちょっと、アイトントアンダースタンドですね」と手厳しい反応。そして「素直に日本語で解説したほうがよろしいんじゃないでしょうか。お年寄りのために」とルー語を使わずに真顔で答えました。

実は難解に見えるルー語ですが、ルーさんはみんなが分かるように中学2年生の2学期までに習う英単語を使うよう、心がけているそうです。さらに、もう一度日本語に言いかえて、内容をフォローするようにしているといいます。

ルー大柴さん「ちょっとディフィカルト、難しいですよー。結局ね、難しい英単語を言うのであれば意味を補足しないと。せっかくインターネットはコンビニエンス、つまり便利なものなのに、分かりにくいままにしてはもったいないですよ。カタカナ語を交える極意は、エブリバデノウズ、知っている英単語を使うことです」

リコンファメーションのお知らせ ☆  
らせです【相模原市】



相模原市リコンファメーションメール

ご予約いただきました接種日は、2021年5月20日  
(木)となっております。  
以下より、ご予約内容をご確認ください。

## カタカナ語のオーバーフロー

新型コロナウイルスの<sup>かんせんかくだい</sup>感染拡大では、これまであまりなじみがなかったカタカナ語が多く聞かれるようになりました。いま街なかを歩けば至る<sup>いた</sup>所に「ソーシャルディスタンス」と書かれた貼<sup>は</sup>り紙<sup>がみ</sup>が。新型コロナとどのように付き合<sup>あ</sup>って生活していくかを表す「ニューノーマル」や「ウィズコロナ」といった言葉も登場<sup>とうじょう</sup>しました。「クラスター」や「サーベイランス」といったカタカナ語は、政府の<sup>せいふ</sup>基本的<sup>きほんてきたいしよほうしん</sup>対処<sup>たいじょ</sup>方針<sup>きざい</sup>にも記載<sup>きざい</sup>されています。

一方で、なかなか定着<sup>ていしやく</sup>しているとはいいがたいカタカナ語も。「ハンマー&ダンス」。どんな意味か分かりますか。急<sup>きゅうげき</sup>激<sup>げき</sup>な感染<sup>かんせん</sup>拡大<sup>かくだい</sup>に対して、ハンマーでたたくような思い切<sup>おも</sup>った対<sup>たい</sup>策<sup>さく</sup>を実施<sup>じっし</sup>し、その後は様々な備<sup>そな</sup>えで、ウイルスとダンスを踊<sup>おど</sup>るように共存<sup>きょうぞん</sup>していくことです。信<sup>しん</sup>頼<sup>らい</sup>性の高<sup>たか</sup>い情<sup>じょう</sup>報<sup>ほう</sup>とそうではない情<sup>じょう</sup>報<sup>ほう</sup>が入<sup>はい</sup>り混<sup>ま</sup>じる「インフォデミック」も、いまでは聞<sup>き</sup>く機<sup>き</sup>会<sup>かい</sup>は少<sup>すく</sup>なくなっています。

## でも、カタカナ語にもメリットが

「言葉が悪いというよりは、社会自体が激変<sup>げきへん</sup>しています。私はカタカナ語をある面<sup>めん</sup>では弁<sup>べん</sup>護<sup>ご</sup>したい」こう話すのは、国語辞典編纂<sup>こくごじてんへんさんしや</sup>者<sup>しや</sup>で『三省堂国語辞典』の編集委員<sup>へんしゅういん</sup>を務<sup>つと</sup>める飯間浩明<sup>いいまひろあき</sup>さんです。飯間さんは、カタカナにもメリットがあると指摘<sup>しき</sup>します。漢字に比べると、目で見<sup>め</sup>てすぐには意味<sup>い</sup>が分<sup>ぶん</sup>からないものの、耳<sup>みみ</sup>で聞<sup>き</sup>いて識<sup>し</sup>別<sup>べつ</sup>しやす<sup>く</sup>記<sup>き</sup>憶<sup>おく</sup>に残<sup>のこ</sup>りやす<sup>い</sup>という特徴<sup>とくちょう</sup>があるということです。

かつて社会が大きく変<sup>へん</sup>わった幕<sup>まく</sup>末<sup>まつ</sup>から明<sup>めい</sup>治<sup>じ</sup>にかけての時代<sup>じだい</sup>。西<sup>せい</sup>洋<sup>よう</sup>からの知<sup>ち</sup>識<sup>しき</sup>や概<sup>がい</sup>念<sup>ねん</sup>を取<sup>と</sup>り入<sup>い</sup>れるため、「自由<sup>じゆう</sup>」や「社会<sup>しゃかい</sup>」などの翻<sup>ほん</sup>訳<sup>やくご</sup>語<sup>ご</sup>が作<sup>つく</sup>られ、漢<sup>かん</sup>語<sup>ご</sup>が使<sup>つか</sup>われることが多<sup>おほ</sup>くなったといいます。しかし、例えば「憲<sup>けん</sup>法<sup>ぽう</sup>」という言葉には「拳<sup>けん</sup>法<sup>ぽう</sup>」や「絹<sup>けん</sup>布<sup>ぷ</sup>」など、同<sup>どう</sup>音<sup>おん</sup>語<sup>ご</sup>や類<sup>るい</sup>音<sup>おん</sup>語<sup>ご</sup>が多<sup>おほ</sup>くありました。当<sup>とう</sup>時<sup>じ</sup>は、識<sup>し</sup>字<sup>じ</sup>率<sup>りつ</sup>が今<sup>いま</sup>ほど高<sup>たか</sup>くない時代<sup>じだい</sup>。一般<sup>いぱん</sup>の人<sup>ひと</sup>にとつて、耳<sup>みみ</sup>で聞<sup>き</sup>くだけでは理<sup>り</sup>解<sup>かい</sup>しにくかったといいます。実<sup>じつ</sup>際<sup>さい</sup>、人<sup>ひと</sup>々が「憲<sup>けん</sup>法<sup>ぽう</sup>の発<sup>はつ</sup>布<sup>ぷ</sup>」を「絹<sup>けん</sup>布<sup>ぷ</sup>（けんぷ）の法<sup>はつ</sup>被<sup>び</sup>（はっぴ）」と勘<sup>かん</sup>違<sup>ちが</sup>いし、はっぴが配<sup>くば</sup>られると、お祭<sup>まつ</sup>り騒<sup>さわ</sup>ぎになっただけでもあつたそうです。

一方で、今回の<sup>か</sup>コロナ禍<sup>か</sup>。「ソーシャルディスタンス」という言葉はそれだけ聞<sup>き</sup>くと何<sup>なに</sup>を意味<sup>い</sup>するかわかりにくいものの、耳<sup>みみ</sup>には残<sup>のこ</sup>ります。「距離<sup>きょり</sup>を取<sup>と</sup>ろう」という意味<sup>い</sup>だと伝<sup>つた</sup>わると、今<sup>いま</sup>では多<sup>おほ</sup>くの人<sup>ひと</sup>が日<sup>にち</sup>常<sup>じょう</sup>生活<sup>せいかつ</sup>や仕<sup>し</sup>事<sup>じ</sup>の中<sup>なか</sup>で使<sup>つか</sup>うようになっていいます。

飯間さん「言葉というものは柔<sup>じゅうなん</sup>軟<sup>なん</sup>で、社会<sup>しゃかい</sup>が変<sup>へん</sup>われば、それに対<sup>たい</sup>応<sup>おう</sup>する表<sup>ひょう</sup>現<sup>げん</sup>をど<sup>ど</sup>んど<sup>ん</sup>作<sup>つく</sup>るので、今<sup>いま</sup>のカタカナ語の氾<sup>はんらん</sup>濫<sup>らん</sup>はコ<sup>こ</sup>ロ<sup>ろ</sup>ナ<sup>な</sup>禍<sup>か</sup>という未<sup>み</sup>曾<sup>ぞう</sup>有<sup>いう</sup>の事<sup>じ</sup>態<sup>たい</sup>に社<sup>しゃ</sup>会<sup>かい</sup>が対<sup>たい</sup>応<sup>おう</sup>しようとしてい<sup>い</sup>る証<sup>しやう</sup>拠<sup>き</sup>。

『知らない言葉を使うな』という気持ちもわかりますが、言葉のシステムが健全に機能しているからなのです」

### 相手に理解してもらえるか考えて

とはいえ、意味が分からない言葉をたくさん覚えるのは大変な気がしますよね……。飯間さんは新しい概念や表現が出ることは避けがたいものの、重要なキーワードは必ずしも多くはないと指摘します。

飯間さん「例えば、クルーズ船での感染拡大で使われた『ゾーニング』といった用語は最近ではあまり聞かなくなっています。一方、使用範囲が広い言葉は繰り返し使われるので定着していきます。言葉の中には、“一発屋”もあれば、長く支持されるものもあります。どれがそうなるかは分からない。新しい言葉が出てきたら、日々勉強のつもりでなるべく覚えるよう心がけ、使わなくなったら忘れてもいいのです」。

一方、何かを伝えようとする人には言葉が伝わる工夫と、伝わりにくい人にも配慮する仕組みが必要だと指摘します。

飯間さん「分かりにくいカタカナ語は使わずにすませられるなら、別の言葉に置き換えたり、使う場合には一言添えたりすれば伝わります。大事なことは相手に理解してもらえるかどうかを常に考えることです。そして、お年寄りなど新しいことが苦手な人には寄り添う仕組みをつくることも大切だと思います」

私たち記者も新しく出てきた言葉を何気なく使ってしまうがちです。けれど、本当にその言葉でなければならないのか。今一度、自分に問いかけながら、言葉と向き合ってみようと思います。最後にルーさんからのメッセージです。

ルー大柴さん「コロナで非常に悩んでいるメニメニピープル、いると思うんですけど、やっぱりホープをフィール、希望を感じてウォークしていかなきゃ。サンクス！」



参考：コロナ禍の主なカタカナ語用語集 ※取材班調べ

コロナ禍新型コロナウイルス感染症が招いた危機的・災厄的な状況のこと

オーバーシュート爆発的に感染者が増えること

ロックダウン都市封鎖・緊急時、交通網を止めるなどして強制的な出入り制限を行うこと

クラスター患者間の関連が認められた集団

アウトブレイク限られた狭い範囲で病気が急増すること

エンデミック特定の地域などで、普段から継続的に病気が発生すること

エピデミック病気の発生が、通常の状態よりも明らかに多い状態

パンデミック国境をまたぐような「世界的な大流行」

インフォデミック情報 (information) と伝染病 (epidemic) の2つの言葉を組み合わせた言葉で、信頼性の高い情報とそうではない情報が入り混じって不安や恐怖と共に急激に拡散され、社会に混乱をもたらす状況

エピセンター感染の震源地

エピカーブ発症時刻と患者数のグラフ

ゾーニング清潔な区域とウイルスによって汚染されている区域を区別すること

サーベイランス感染症の発生状況 (患者及び病原体) の把握及び分析

WHO (World Health Organization) 世界保健機関。「すべての人々が可能な最高の健康水準に到達すること」を目的として設立された国連の専門機関。新型コロナウイルスを含め、感染症対策の指針を発信している

COVID-19 (コビッド-19) 新型コロナウイルス感染症の名称。Coronavirus Disease 2019 (2019年にコロナウイルスにより発生した病気) 2019年12月に中国・武漢で確認された

アルファイギリスで確認された変異ウイルスについて WHO が新たに定めた呼称

ベータ南アフリカで確認された変異ウイルスについて WHO が新たに定めた呼称

ガンマブラジルで確認された変異ウイルスについて WHO が新たに定めた呼称

デルタインドで確認された変異ウイルスについて WHO が新たに定めた呼称

ハンマー&ダンス (The Hammer and The Dance) 急激な感染拡大に対して、ハンマーでたたくような思い切った対策を実施し、その後は様々な備えで、ウイルスとダンスを踊るように共存していくこと。流行対策の概念

ソーシャルディスタンス感染症などの拡大を防ぐため、意図的に人と人との物理的距離を保つこと

6  
ステイホーム新型コロナウイルス感染拡大防止のため、うちですごそう、外出を控えようということ

東京アラート感染状況の悪化の兆候が見られる場合に都民に警戒を呼びかけるもの

ゼロ密密閉・密集・密接が1つもない状況のこと

咳エチケット感染症を他の人に感染させないために、せき・くしゃみをする際、マスクやティッシュ・ハンカチ、袖、ひじの内側などを使って、口や鼻をおさえること

テレワーク ICT（情報通信技術）を利用し、時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方  
ワーケーション仕事（Work）と休暇（Vacation）を組み合わせた欧米発の造語で、テレワーク等を活用し、普段の職場や居住地から離れ、リゾート地などの地域で普段の仕事を継続しながら、その地域ならではの活動も行うもの

ノマドワーカー電車、カフェ、家などを移動して仕事をする人

エッセンシャルワーカー最前線で感染のリスクもある中コロナに向き合う医療従事者や、在宅勤務が難しい中社会を回すため働く人たち

ベーシックインカムすべての個人が、権利として、無条件で、普遍的に、一定の額のお金を定期的に受け取ることができるという理念・制度

アベノマスク政府が全国すべての世帯に配布した布製のマスク

ハレーション周囲に及ぼす悪影響や人間関係の摩擦のこと

ウィズコロナコロナと共生する社会の意味

ニューノーマル感染症の流行で急速に浸透した新しい生活様式

エビデンス根拠や裏付け

転売ヤー希少価値の高いチケットを転売目的で大量に購入し、オークションサイトなどを利用して高額で販売する人たち

ソフトウェアコンピューターを動かすプログラム

アプリ目的にあった作業をするソフトウェア

オンラインパソコンやスマートフォンがインターネットといったネットワークにつながっている状態のこと

オンライン診療スマートフォン、パソコンなどの通信機器で医療機関に相談すること

チャットオンラインでつながった人とする文字による会話

オン飲み「オンライン飲み会」の略。ビデオ通話を使って離れた場所にいる友達などと飲み会を開くこと

ユーチューブ動画を投稿できてみんながそれを見ることができるサービスの1つ

クラウドファンディング 応援資金を募る活動

サインイン・ログイン コンピューター上で利用者本人の確認を行い、接続や利用を申請すること

マイページ 契約内容の照会や各種手続き等ができる、利用者専用のページ

フィーチャーフォン スマートフォンよりも前の世代の携帯電話

バナーウェブサイトを紹介する役割をもつ画像

ホームページ それぞれのウェブサイトで最初に見られることを目的にしたページ ウェブサイト

全体を指す意味でも使われる

アカウント コンピューターやソフトウェア、ネットワークなどを使用するための権利や資格のこと

と

URL (Uniform Resource Locator) インターネット上で情報が格納されている場所を示すための

住所のような役割を果たす文字列のこと

リコンファメーション (Reconfirmation) 予約の再確認